

「手賀沼ふれあい清掃」からまちづくりへ

—我孫子市職員組合の新たな自治研活動について—



我孫子市職員組合 書記次長 嶋田 繁

1 イン트로ダクション

(新たな自治研活動に取り組んだ背景)

千葉県北西部にある我孫子のまちに職員組合が設立されたのは市制施行以前の1955年。当時の旧我孫子町・湖北村・布佐町が合併し、新たな我孫子町が誕生した頃である。設立以降、我孫子市職員組合（以下、当組合）は職員の労働条件の向上のための運動に活発に取り組んできたが、それとともに、手賀沼浄化のためのせっけん推進運動や下総基地米軍機訓練基地化阻止問題、市内の被爆者に取材して作った「聞き書きヒロシマ・メモリー」の刊行、「憲法を考える市民の集い」の開催など、市民と連携したさまざまな取り組みを行ってきた。しかし私が初めて執行委員となった6年前には自治研部として特に定まった活動があったわけではなく、担当になった私自身、自治研活動とは何かよくわからないまま、時折、県本部の会合に出席するのみであった。

転機となったのは、2010年の第33回地方自治研究全国集会（名古屋市）への参加だった。全国の自治研活動の発表を見聞き、それに関わる人々の熱い思いに触れ、「自治体の組合がこんなに積極的に地域に出て、深くまちづくりに関わっているのか」と目からウロコが落ちた。そして「自分達にも何か始められることはないか」という思いが募った。これが現在の自治研活動を始めようと思った最初のきっかけである。

2 具体的な取り組みテーマの選定

しかしながら、組合員が（業務以外で）まちづくりに関わる機運を高めるためには何を活動テーマにすればよいか。しかも、一過性ではなく継続的な活動とするには、参加者が「やってみたら面白かった」と感じ、次回も参加しようと思ってもらうことが必要と考えた。まちおこしの活動か、調査研究のようなものか、なかなか考えが定まらなかったとき、以前業務で携わった「ふれあい手賀沼清掃」に思い当たった。

手賀沼は我孫子市の南側に広がる面積約6.5km²の湖沼である。かつてはウナギの名産地として知られ、漁師は船から湖水を掬って飲んだといわれるほど清澄な水域であったが、高度経済成長期に流域で宅地開発が進んで生活雑排水が大量に流入し、27年間連続で全国の湖沼の水質ワースト1となってしまった。国の北千葉導水事業により2001年度にワースト1は脱出したものの、かつての水質と生態系は未だ取り戻せていない。

この手賀沼の水質浄化の取り組みには国や千葉県、流域の市町村のほか、流域住民も共に参加してきた。その一つがふれあい手賀沼清掃で、手賀沼浄化に関わる市民団体や関係業界の組合、我孫子市などが実行委員会を組む、毎年12月に市民数百名が参加して行われている。

「ふれあい清掃に参加して我孫子のシンボル手賀沼をキレイにしよう!」。これなら組合員の共感を得られるのではないか。手賀沼浄化は当組合が深く関わってきたテーマであり、組合員が市民

と一緒に汗を流せる絶好の機会でもある。既存の清掃活動への参加のため独自性とインパクトには欠けるが、組合の負担は小さく“はじめの一歩”としては最適と考えた。早速、自治研部内で図り、執行委員会の了承を得て当組合の自治研活動として取り組むことにした。

3 過去4年間の取り組み概要

「手賀沼ふれあい清掃に参加しよう！」と組合ニュースで初めて組合員に参加呼びかけを行ったのは2010年冬である。どのくらい反応があるか全く自信がなかったが、当組合の現業評議会から8名の申し込みがあり計12名が参加。清掃当日には500名以上の市民が集まり、手賀沼公園から手賀沼ふれあいライン沿いの歩道や湖岸のアシ原で清掃を行った。当組合員も長靴を履いてアシ原に入り、ペットボトルや空き缶、ビン、レジ袋に入れた弁当容器、金属片、タイヤ、ビニールシート、布団などを引き上げた（写真1）。なお、清掃終了後には現業評議会メンバーが清掃参加者（市民）に花の種を配布して、現業評議会の活動PRも行った。

続く2011年には独自のポスター（写真2）も作って募集を行った。その効果か、この年には入庁1～2年目の若手組合員3名が参加し、現業評議会メンバーを含め前年より微増の14名の参加を



写真1：2012年の清掃で、アシ原から引き上げられたゴミの一部。この日に回収された不燃・可燃ゴミの総量は1,360kgだった。

得た。その後の2012～13年には、筆者自身は業務で参加できなかったが、他の自治研担当者が準備と当日の作業を全て引き受けてくれ、2012年が10名、2013年は20名の参加者があった。最近は組合員だけでなく家族（子ども）も参加してくれるようになり、活動の輪が徐々に広がっているのを感じている（写真3）。

なお、いずれの年も自治研担当者が趣向を凝らした福袋を準備し、組合参加者に配っている。これは参加してくれた組合員に「行ったらちょっと面白かった」と思ってもらえればと考えたからだ。「業務外でまちづくりや社会貢献に参加しよう」などと大看板を掲げると誰も参加しないので、“遊び”の要素というか、「ちょっと暇だから行くか…」と思ってもらえるくらいの気軽な雰囲気作りを心がけている。

4 現状の活動について（評価）

徐々に参加人数は増え、取組み自体の認知も進んできた。実績はささやかだが、「アクションを起こそう」という第一段階の目的は達せられたと考えている。その大きな要因の一つは、現業評議会メンバーが毎年積極的に関わり活動を支える力になってくれたことだ。これにより活動のベースが築かれた。最近も給食調理員の現業評議会メンバーから「自分たちが温かい豚汁を作るから参加

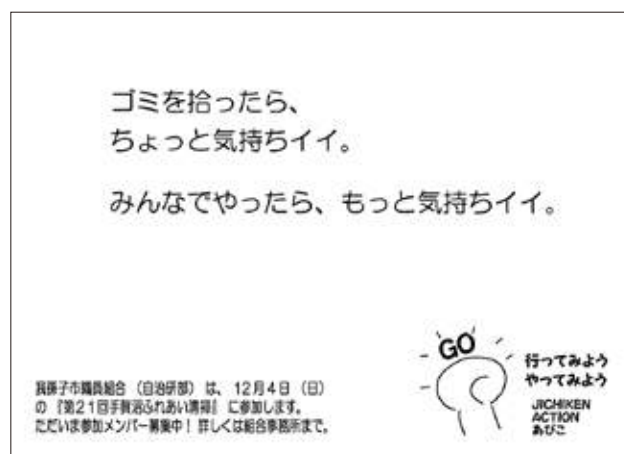


写真2：参加を呼び掛ける組合独自のポスター

した市民に振る舞ってはどうか」との提案が寄せられている。これはぜひチャレンジしたいが筆者の調整不足でまだ実現できていない。

一方で課題も多い。参加者数は微増だが、若手の組合員をほとんど取り込めていない。主な原因はPR不足なので、職員一人ひとりへ口コミでの参加呼びかけを粘り強く続けていこうと考えている。また当組合で最も人数が多く活発な青年部との連携を図りたい。そのためには自治研活動の企画・運営に担当役員以外の組合員に参画してもらい、取組みのアイデアを一緒に考える体制が必要とも思っている。さらには2013年秋に設立された当組合退職者会にも呼び掛け、世代を超えたつながりを作り、参加者の範囲を広げたいと考えている。

5 今後の展望

現在取り組んでいる「手賀沼ふれあい清掃」への参加は、当組合自治研部の具体的なアクション

として続ける予定であるが、そろそろ次の段階を考えるべき時期に来ている。現在のところ将来展望は全く見えていないが、一つだけ考えているのは、「我孫子市職員が業務外（プライベート）で地域のまちづくり活動にどのくらいかかわっているか（いないのか）」についてのアンケート調査の実施である。

内容は検討中だが、自治会や消防団、まちづくり協議会、NPOなどの組織・団体に関わっているか、関わっている場合には役割や課題、関わっていない場合にはその理由などを聞いて、まずは現状を把握したい。結果について今は全く予測できないが、そのステップを踏むことで、自治研活動の将来展望の構築に何らかの手掛かりが得られるのではないかと期待している。アンケートの内容や今後の展開についてはまだまだブラッシュアップが必要な段階であることから、今後、千葉県地方自治研究センターの月例会などで関係各位から率直なご意見を賜りながら進めていければと考えている。



写真3：清掃後に参加者で集合写真（2013年）